

| | | | |
|-------------|---|------|-------------|
| 研究テーマ | 富士北麓・東部地域の伝統的な織物を活用した新商品開発 | | |
| 担当者 (所属) | 五十嵐哲也・鈴木文晃・秋本梨恵・家安香（繊維） 茅暁陽・豊浦正広（山梨大学） | | |
| 研究区分 | ダイナミックやまなし枠研究 | 研究期間 | 平成 30～32 年度 |

【背景・目的】

本県織物産地は、甲斐絹をルーツとする伝統技術を生かしカーテン、衣料、ネクタイ、傘、ストール等の生地を高級市場向けに生産している。近年下請けから提案型への転換が求められる中、従来の取引先からの受注量は縮小しており、産地企業は提案力の高度化と、新市場開拓の双方に対応する必要がある。そこで、これまで研究開発した技術シーズを製品開発の現場で活用するためのツール開発、また技術シーズを最適な市場に向けて製品化する企画デザイン支援を行うことで試作開発の高速化・高度化による競争力強化、新市場・新規顧客の開拓を支援し、従来と異なる新市場（分野・用途）への進出、海外産地等の既存市場の新規顧客の獲得を目指す。

【得られた成果】

* これまでに開発した技術シーズである画像処理技術によるジャカードデータ生成技術を、織物製造業の企画・デザイン業務に導入するためのツールとして、アプリケーションソフトのプロトタイプ（図1）を作成し、操作性を含めた機能向上のための評価を行った。新商品開発工程に活用する上での操作性や機能における改善点や新たに開発すべき技術的課題が明らかとなった。

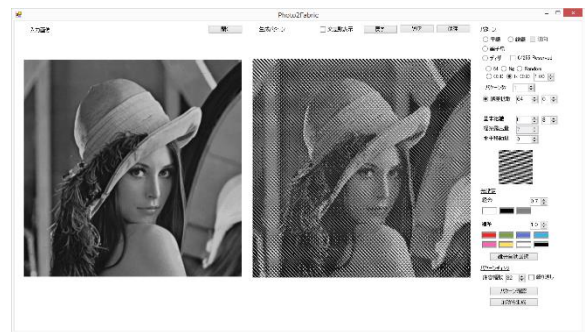


図1 アプリケーションソフトのプロトタイプ

* 技術シーズを生かした新商品の市場投入に向けて産地企業4社の企画・デザイン担当者とともに新規織物の企画及び試作開発を行った。試作品の一部については2019年2月にイタリア（ミラノ）で開催された衣料ブランドバイヤー向け生地展示会「ミラノウニカ」に出展した産地企業2社の合同ブース内において、本研究の技術を紹介するコーナー「KOMOREBI JACQUARD」を設け展示した（図2）。その結果、海外ブランドバイヤーから、独自技術によるスムーズな階調変化を実現した試作品（図2）について、従来技術では見られない独特な色の表現に対して高い評価を得ることができた。



図2 ミラノウニカ展での KOMOREBI JACQUARD コーナー（左）と試作生地

【成果の応用範囲・留意点】

ジャカード織物全般に応用可能で、試作品を基にした各種生地素材の新商品開発が期待できる。本研究で活用している技術は山梨県、及び山梨県と山梨大学が保有する特許技術及びノウハウが含まれるため、商用利用には実施許諾契約が必要となる。